

令和2年度第3回足立区区民評価委員会 会議録

会 議 名	令和2年度第3回足立区区民評価委員会
事 務 局	政策経営部政策経営課
開催年月日	令和2年12月18日(金)
開催時間	午前9時04分開会～午前10時52分閉会
開催場所	足立区役所8階 特別会議室
出席者	<p>区民評価委員会委員(17名) 石阪督規会長、藤後悦子副会長、遠藤薫委員、大口達也委員、 寺井公子委員、明尾陽子委員、伊藤萌恵委員、井上寛之委員、 大竹恵美子委員、亀田彩子委員、庄子恵美委員、田邊治代委員、 中川麻耶委員、中島明子委員、長谷川浩一委員、藤澤一馬委員、 村田文雄委員</p> <p>区側出席者 政策経営部長、政策経営課長、財政課長、政策経営担当(3名)、 財政担当(2名)</p>
欠席者	なし
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 令和2年度足立区区民評価委員会 次第 資料 令和2年度(令和元年度実施事業分) 足立区区民評価委員会報告書(案)
その他	

(審議経過)

○事務局(政策経営課長) 定刻を過ぎましたので、ただいまより令和2年度第3回足立区区民評価委員会を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めます足立区の政策経営課長の伊東でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、前回に引き続きまして、区民評価委員会報告書の内容検討となります。本日の会議をもちまして報告書の内容を固めてまいりますと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますが、本日の議事進行を石阪会長にお願いいたします。石阪会長、よろしくお願いいたします。

○石阪会長 皆さん、改めまして、おはようございます。石阪です。よろしくお願いいたします。

コロナ禍の中で、今年度については、リモート中心に全体会を進めてきましたけれども、本日が、皆さんに集まっていたいで行う全体会としては最後になります。皆さんには、最後に大体2分間ぐらいずつですけれども、ご意見、ご感想を一言ずついただく時間も設けています。今日は、ここにいらっしゃる方全員がご発言いただくような形になると思いますので、その旨よろしくお願いいたします。

それでは、時間も限られていますので、早速議題に入ってまいります。

まず、今事務局からもご説明ありまして、今日は皆さんにご執筆いただいたり、あるいは、いろいろ修正いただいたりした区民評価委員会の報告書の内容検討ということになります。

改めまして、これが完成しましたら2月9日に区長に対して答申を予定していますの

で、本日が検討する場としては最後ということになりますので、またもろもろご意見を頂ければと思います。

それでは、早速ですけれども、次第に沿って進めていきたいと思います。

それでは、区民評価報告(案)について、前回ご意見のあった部分の修正を事務局から説明をお願いします。

○事務局(政策経営担当係長) 事務局の光井です。私から説明させていただきます。

まず準備したパワーポイントを表示させていただきますので、少しお待ちください。

委員の皆様を確認をさせていただきます。今パワーポイントが無事に画面に表示されていますでしょうか。——ありがとうございます。

中島さん、パワーポイントは見えていますでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

委員の皆様が手を挙げているのを全員確認しますので、少々お待ちください。

長谷川さん、すみません。今パワーポイントでご確認できていますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様が無事に表示できていることが確認できましたので、今日、私は基本的にはパワーポイントを使って説明させていただきますが、補足として、お手元の区民評価委員会の報告書の修正(案)も併せて見ていただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは、早速修正内容の説明に入らせていただきます。

パワーポイントの話を先にさせていただきますが、1ページ目のところの「報告にあたって」の部分につきましては、次第にもございますが、後ほど石阪会長よりご説明いただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局で修正を行った部分の説

明をさせていただきます。

報告書（案）5ページをご確認ください。頂いたご意見です。新たに追加した行政評価の流れの図です。今、左側に表示している図が、実際に報告書の中に新たに記載させていただいた図なのですが、頂いたご意見といたしましては、行政評価の流れの図と後ろにつけております資料編の行政評価運用マニュアル、お手元資料だと73ページになります。内容が異なっているというご意見です。

具体的には、こちらの新たな図については、部内評価から始まって外部評価にボトムアップする図になっているのですが、行政評価運用マニュアルについてはトップダウンの図になっていて、表現の仕方、流れが逆になっているので、行政評価運用マニュアルの73ページの図を参考に、トップダウンの表示のほうが見やすいのではないかとご意見を頂きました。

事務局のほうで修正させていただいたのが、内部評価の図を上の部分に構成させていただいて、トップダウンというところまでには至っていないのですが、ぐるっと回るように、下に最終的な流れが来るように外部評価を右側から下にかけて構成させていただいております。庁内評価（2次評価）の近くに区民評価委員会の図を描かせていただきまして、諮問・答申という流れになります。頂いたご意見の中で、議会と監査委員会の報告は最後になるのでは下のほうがいいのではないかとご意見もありましたので、この2つの機関への報告は下に構成させていただきました。

最後に検証・評価する流れになっているのですが、ここが表示を変えさせていただいた部分で、区民評価委員会の中でもキーとなる頂いた評価であったり、検証・結果を各部へ指示する、フィードバックする流れのベクト

ル、こちらは行政評価運用マニュアルには記載させていただいておりましたので、この矢印、ベクトルを追加させていただいております。

修正点のポイントとしましては、流れの視点となる部内評価を上げて、終点となる議会と監査委員会への報告を下に入れ替えさせていただいて、トップダウンまではいかないのですが、ご意見を踏まえた上での構成とさせていただきます。

最後に説明させていただいた所管へのフィードバックを、行政評価運用マニュアルの図に合わせて追加させていただいております。

ポイントといたしましては、内部評価から始まって、ぐるっと時計回りに流れが完結するような形で、図の構成を変更させていただいております。

図の説明は以上となりますが、続きまして、修正点10ページです。お手元の資料は10ページをご準備ください。

頂いたご意見といたしましては、「重点プロジェクト事業の評価対象事業の絞り込みのプロセスを章立てして記載すべき」ということであります。

事務局の修正案といたしましては、頂いたご意見を踏まえて章立てして、10ページに構成・加筆させていただいております。

内容を再度見直させていただいた結果、8ページに記載しておりました区民評価委員会全体会の概要の記載した第3章「コロナ禍における運営手法の変更点」の記載内容が、実は一般事務事業も含めて全体の総括的な内容を書かないといけないのですが、重点プロジェクト事業の評価活動のみ記載すべき内容まで8ページに記載しておりましたので、8ページの部分から削除して、具体的には10ページの（2）の部分に転記しており

ます。

評価対象事業（1）の見出しのところのポイントが2点ございますので、説明させていただきます。

ポイントの1点としては、限られた期間の中で絞り込みを行うに当たっては、評価活動をする必要があったという点です。背景、要因としては、確認にはなるのですけれども、コロナの影響で評価活動の開始が後ろ倒しになったという点です。要因2としては、感染拡大の波が懸念される冬季前、具体的には10月ぐらいまでに、小さい会議室で評価活動を行う分科会の活動を終了させる必要があったという2点がございました。

事務局といたしましては、適正に短い期間で評価をしていただくために、評価対象事業の絞り込みを行うか否かということ判断しないといけないと考えておりました。そこで、委員の皆様アンケート調査を実施したという経緯も書かせていただいております。

アンケート調査でございますが、多くの委員の方から、適正に評価活動を行うためには絞り込みを行うべきだというご意見を頂いておりますので、そのアンケート結果と短い期間で実施しなければならない評価スケジュールの2点を考えた結果、ここは区が決めたということなので、「区」がという主語をつけさせていただいて、評価対象事業を約半数に絞り込むことに決定したということ段落として書かせていただいております。

そして絞り込んだ後、実際に具体的にどの重点プロジェクトの事業を選定していただくかというポイントとしては、区としては、各分科会のこれまでの評価活動の経緯・経過を踏まえて、事業を選定する視点も必要と考えておりました。

そこで事務局といたしましては、各分科会長に評価すべき事業の意見を伺って、評価す

べき事業について丸をつけていただいたプロセスを行っております。その分科会長から頂いたご意見を踏まえて、あとは区の内部で、この事業は評価してもらうべきだという内容の精査を行った結果、事業の入替えを多少行いましたが、最終的には区が評価対象事業を選定しているので、ここも主語を「区が」ということで書かせていただいて、評価対象事業の31事業を選定したという内容にさせていただきます。

小見出し2番は、内容のコンバート部分もあるので、簡単に説明させていただきますが、内容といたしましては、重点プロジェクト事業の評価活動も、ヒアリング時の狭い会議室の3密を避けるために、対応策としてオンライン会議システムを導入しましたよということ構成させていただきました。ポイント2点目としては、これは重点プロジェクト事業の評価活動のみに記載すべき内容でございました。こちらが対面のヒアリングに比べて発言の意図が伝わりにくい。今まさに音声途切れたりしていることもあります。やはり分科会の評価活動の中でもそういった点が懸念されるので、対応策としては、聞き直しの時間も考慮して、ヒアリング時間を今年に関しては試験的に20分から30分へ延長させていただきました。この2点の変更点を（2）の小見出しの中に記載させていただきます。

続いて、18ページから40ページの各分科会長からの提言の部分です。こちらの説明をまとめてさせていただきます。

まずは大口先生から頂いたご意見です。くらしと行財政分科会の中で、先生といたしましては、「改善の部分を「Act」と表現していたのですが、事務局では「Action」という言葉を使っているの、統一したほうがよいのでは」というご意見を承りました。こちらに

つきましては、事務局の表現、「Act」の部分を「Action（改善活動）」という言葉で使っておりましたので、「Act」と記載していただいた部分は事務局の言葉へ修正させていただいております。

18 ページから 40 ページの修正点で、事務局の中で精査して変更した点について、ご説明させていただいております。

3 分科会の提言の中に、前年度との平均点数を比較する表があったのですが、修正前は左側に記載させていただいていて、少し見やすくしたほうがいいかなと私も思いましたので、評価して、結果が上昇したのか、それとも下がってしまったというのを矢印で表現するようにして、見やすく変更させていただきました。

続いて、全体の重点プロジェクトの総括の評価を書いている 13 ページに、評価活動の各分科会の平均点の比較ということで、画面で言うと、右側の「ひと」「くらし」「まち」「行財政」という視点別の平均点がずらっと並んだものと、各分科会では、先ほど表示しました左側の図ですが、分科会としての 5 段階の平均点を表示したものがございます。

例えば「くらし」の部分で見ると、評価点が令和 2 年度では 4.5 点になっているのに、反映結果に対する評価の分科会のところを見てみると 4.3 になっていて、一見すると一致しないのではないかと見えてしまいます。この原因は、実際には、くらしと行財政分科会は、行財政の部分も含めて平均点を出しているのですが、この視点別に出した平均点と分科会別で平均点を出したものが一致しないので、ちょっと見づらいのではないかとこの意見が事務局の中でも出ておりました。

今スライドで表示させていただきましたが、13 ページのこの表につきましては、視点別で評価の平均点を算出しております。各分

科会の中での平均点を出しているものは分科会単位、具体的には「くらし」と「まち」に関しては、行財政の視点を加えて評価点の平均点を算出しておりますので、表示されている平均点が分かりにくいという状況になっておりました。

2 点目としては、今の報告書（案）だと各分科会別の平均点の比較と見出しが書かれているのですが、これは正確に言いますと視点別に出しているのですが、視点別の平均点という形にならなければならなかったところがあります。表のタイトルに誤りがあったので、分科会ごとの平均点として見えてしまって誤認してしまう、混乱を招いてしまうということになっておりました。そのため、事務局としては、13 ページの表の名称は「視点別」という形で正しい名称に変えさせていただきます。

お手元の資料をご確認いただければと思うのですが、各分科会の平均点を記載しているところには網かけしておりますが、注記を加えさせていただきました。「くらしと行財政分科会と、まちと行財政分科会につきましては、視点別のくらしの事業と行財政の事業を合算して平均点を算出しております」という注記を加えました。今、案として出している文章につきましては、最終原稿までによりわかり易い表現に修正いたしますが、意図としては、分かりやすくするために注記を追記させていただくという内容でございます。ひと分科会は視点別で分科会が構成されているので、基本的には同じ点数が表示されています。

分科会の平均点の算出も、今まで四捨五入をしていたのですが、今年度以降は視点別の点数の算出方法と同じようにすることと、詳しく前年度と比較して、上昇したのか下降したのか、それとも横ばいなのかというのを表

示するために、小数点第2位まで表示するように変更いたします。

最後の部分になるのですけれども、用語の解説の追加です。

頂いたご意見は、まず最初に藤後先生から「アハ体験」という言葉ですが、一般的にはなじみがないような言葉は用語解説に含めたほうがよいということで、巻末にごさいます用語解説の中に加えさせていただきました。そして本文の中にもページ数を表示するようにして、読んだときに、どういうことなのか用語解説を見ていただければ分かるように変更を加えております。

気になった用語を加えていくと、どんどん増えていくのではないかとご意見もありましたが、前回の全体会の中では、毎年度見直していった、一般的に定着したものは整理していけば多くなっていかないのではないかとご意見がありましたので、委員の皆様からご意見を頂いたところは基本的には用語解説に含めるべきとして考えて、今年度は用語解説の中に委員の皆様から頂いたものは加えさせていただいています。

下に各委員さんから頂いた意見の用語解説を加えております。具体的には「AI」「チャットツール」「eラーニング」「アウトリーチ」「スクールカウンセラー(S C)」「スクールソーシャルワーカー(S S W)」「タイムラグ」「コミットメント」です。合計で9つ、用語解説として加えております。

修正部分の説明は以上となりまして、「委員の皆様へのお願い」というところで、事務局からお願いをさせていただきたいのですが、今日の会議の内容を踏まえて修正は加えます。その修正をしていく上で、製本に向けて見直しを行っていくのですが、内容に影響のない範囲での軽微な修正、「てにをは」であったりとかの軽微な修正につきましては、

事務局への一任をよろしく申し上げます。

すみません。長くなってしまいましたが、修正点の説明は以上となります。ありがとうございました。

○石阪会長 光井さん、ありがとうございます。

ここまでですけれども、前回出た修正点について、事務局のほうから修正をいただいたということですが、何かご意見、ご質問があれば、この場でお願いしたいと思いますが、いかがでしょう。

○遠藤委員 修正もできたし、大変すばらしいことになっていると思うので、今さら修正とか、申し訳ないのですけれども、修正してくださいというのではなくて、皆さんどうでしょうというご意見を伺いたいぐらいの話なのですが、比較表です。これは小数点第2位まで有効ですかねという話。私、小数点第1位でも、なんか恥ずかしいぐらいぎりぎりのところでやっているなと思っているのですけれども、2位まで出してどうなのですか。それで上がった、下がったと一喜一憂しているようなものなのかなと思ったのですけれども、どうですか。私はあまりその辺は詳しくないけれども、感覚的に小数第1位までにしてよという感じがするのですけれども、どうでしょう。

○石阪会長 小数第2位まで出したけれども、例えば、4.53と4.51となったときに、これは上がった、下がったという問題ではないと思うということですね。ほぼ同じという。今後もし二桁にするとすると、このあたりをより細かく見ていくという意味なのか、むしろそうではなくて、大体これは横ばいだと、矢印で言うとほぼ横ですよね。というようなイメージで捉えるのか。少なくともこれを見る限り、0.01でも違っていればアップダウンになるということですよ。第2位まで出

すこと自体、細かいですけれども、一応出しても、これで例えば上がった、下がったという評価に結びつくのかというところは、ちょっと切り離して考えたほうがいいということですか。

○遠藤委員 そうなのですけれども。

○石阪会長 そうすると細くなっちゃうのでね。

○遠藤委員 まちと行財政分科会の感覚で申し上げているのですけれども、どうでしょう。

○石阪会長 このあたりいかがでしょう。事務局としては、これを今後どう扱うかということもあると思うのですけれども、光井さん、どうですか、この点。

○事務局（政策経営担当係長） 事務局の光井です。

もともと小数点第1位までしか表示していなかったのは、遠藤先生がおっしゃっていたとおり、0.01の刻みの範囲で横ばいなのか上昇したのかというのは、分科会の中でも約20の相対的な事業の分数という形になっていたので、0.01上がったか下がったかというのは、各事業のPDCAサイクルの中で見たときには、確かに大きく影響するものではないというところで、分かりやすく表示するために小数点第2位を切り上げていたという経緯はあったのではないかなと思っています。

確かに0.01の部分まで表示すると、正確な比較というものはできているのかなとは思いますが、各重点プロジェクトおのおのの事業に対して大きく影響があるのかというと、0.1単位の差というのは大きな影響としてはしないのかなと思っています。なので、分かりやすいかどうかという視点での整理というのにも必要なかなと思っています。

○遠藤委員 光井さんはよく理解されてい

るので、さあ、どうするかということなのだと思うのですけれども。1つ今気になったのが、より正確かということ、そうでもないということなのですよ。有効数字がどこまでかということなのであって、こういうのは。だから二桁まで出して見解を述べるのが、必ずしも私は正確だとは思えないのですね。すみません。こんなことで時間を取っちゃってあれなのですけれども。

○石阪会長 恐らく今年度については、事務局のほうで、より正確にということで二桁を出したわけですが、遠藤先生、これは次年度の課題ということでもよろしいですかね。そういう意味では、これは実際に皆さんに見てもらって、むしろより細かくてよくなったという意見も、あるかもしれません。反対に、実はそこまで大きな差がない、といった意見もあるかもしれませんので、次年度また一桁にするか、二桁にするか、議論を次年度に持ち越す形になると思います。しかし今年度の報告書についてはこのまま二桁でお願いしたいと思います。それから矢印についても、今、矢印が上、下、横と3つしかないのですけれども、このあたりもどうなのか。例えば0.01の違いで上下と言ってしまっているのかどうかも含めて、今年度についてはかなり厳密にやってもらいました。次年度、遠藤先生の意見も含めて、見直しも検討するというところでよろしいですか、皆さん。

○遠藤委員 私は了解です。

○石阪会長 もし次年度、議論する機会がありましたら、二桁にするのか一桁にするのか、そのあたりをご議論いただければと思います。

その他、何かご意見、ご感想はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、内容についてご異議、ご議論がなければ、この文案で進めさせていただく。

軽微な修正については事務局に一任するという形にしたいと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして、2つ目になりますが、報告書（案）の冒頭の「報告にあたって」、これは私が執筆したものですけれども、こちらのほうを説明させていただきたいと思います。

これは画面に出ますか。

○事務局（政策経営担当係長） 事務局の光井です。石阪先生、申し訳ございません。今から画面共有の準備を行いますので、少しお待ちください。

○石阪会長 報告書の冒頭部分の執筆は、前回の田中先生に代わって私が執筆することになりましたので、改めて私のほうで書いたものを読み上げさせていただきます。もし何か修正点や分かりにくい点等がありましたら、ご指摘いただければと思います。

報告にあたって

区民目線による客観的な評価を行い、それらを事業の改善、さらに効率的かつ成果重視の区政運営に結びつけることを目的とする区民評価委員会（以下、委員会）は、本年度16年目を迎えた。区民と行政職員との対話を重視したヒアリングや分科会ごとの丁寧な評価作業、そして行政報告会や意見交換会、表彰の実施など、一連の評価のプロセスは、この間、多くの見直しや修正を重ねながら、着実にその精度を上げ、進化を遂げてきた。毎年、多くの時間と人員とを本評価作業に費やしてはきたが、委員や職員らの努力によって、それに見合うだけの評価の「質」を維持・確保してきたといつてよいだろう。

しかし今年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、委員の区役所への参集はもちろん、会議や評価を対面で行うこ

とが難しいという未曾有の事態の中での評価を余儀なくされた。報告書の本編でも触れられているように、日程の短縮・後ろ倒し、評価対象事業の絞り込み、さらには、オンライン会議システムを用いたヒアリングの導入・実施など、試行錯誤を重ねながら作業を進めていくという対応にせまられた。こうしたイレギュラーかつ過密なスケジュールのもと、評価にかかわった委員や職員の負荷も例年以上に大きなものであったと思われる。

本委員会では、区民がより安全・安心で幸福なくらしを営む上で優先度の高い政策である「重点プロジェクト事業」と事業に課題の見られる「一般事務事業」の評価を行い、事業目標の達成度や継続的検討すべき課題が確認された。全体会評価基準や評価方針の検討・確認を行った後、4つの分科会で、ヒアリングと評価作業を行い、委員の合議により評価点を決定した。本報告書は、その後2度にわたる全体会での審議を経て、最終評価としてまとめたものである。

次ページの図は、各分科会での評価結果の概要を示したものであるが、各分科会の重点プロジェクトの全体評価の平均点は4を上回っており、おおむね良好な結果であったといえよう。しかし、重点プロジェクトの評価では、「反映結果に対する評価」が下落している事業も多く、評価結果を事業の見直しや改善へとつなげる「PDCAマネジメントサイクル」の定着のためには、課題もみられた。

各分科会からは、区政と多様な主体との間での連携の強化、とくに教育や人材育成の分野で、固定的な役割にとらわれない横断的な連携が必要となること、複数かつ大小のPDCAサイクルを意識的に実践していくことの意義、そして当事者の視点を取り入れた評価の重要性などについての言及があった。また、複数の分科会からは、協創の理念が十分

に浸透していない現状をふまえ、多様な主体が関わり合う協創の「種」となるような事象を育て上げ、広く内外へ発信していくこと、加えて、協創を担う多種多様な人材が活躍できる場を提供すること、などについても言及がなされている。さらに、オンライン・システムを利用した評価作業にかかわる工夫や改善、活動指標・評価指標、評価点の見直しなどについての提言もみられた。なお、今年度の委員会より新たに導入された会議、評価作業時のオンライン・システムについては、評価作業の質の向上、効率化を進める意味でも、継続することを視野に入れつつ、引き続き、有効な利活用のあり方について検討していくことを求めたい。

本報告書の完成をもって、今年度の区民評価は一つの区切りを迎えることになるが、各事業の担当部局ならびに関連部局にあつては、本評価結果を、次年度以降の指標項目や目標値の見直し、事業内容の改革・改善に役立て、PDCAサイクルの確立、そしてそのサイクルの一層の充実をめざして事業に取り組んでいただきたいと思う。

最後に、多くの制約・制限がかかるなかで長期間にわたって委員会活動、評価作業に携わっていただいた委員のみなさま、円滑な評価作業の進行にご協力・ご尽力いただいた区職員、とくに新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進行するさなか、最後まで委員会の評価活動を支えていただいた政策経営課、財政課職員のみなさまに対して、心から謝意と敬意を表したい。

令和3年2月

足立区区民評価委員会
会長 石坂 督規

という文案です。一通り皆さんの書いてい

ただいたものから抜粋したり、今年度はかなりイレギュラーだったということもありましたので、その点も踏まえて書かせていただいたりということ。それから、今回、評価点4を一応超えたのですけれども、特に反映結果に対する評価が低かったので、PDCAをちゃんと回してもらいたい点について強調させていただきました。さらにオンラインシステムは、試行錯誤の中で進めてきましたけれども、これはシステムとしてはかなり使えるシステムでもあるので、今後いろいろやり方を改善しながら、次年度以降も引き続き取り入れる部分については取り入れていただきたいという要望も入れておきました。

もし何か皆さんから修正なり、あるいは加筆すべき点などがありましたら、ぜひここでコメントを頂ければと思います。いかがでしょうか、委員の皆さん。何か気になるところということでも構いませんし。

よろしければ、微修正があるかもしれませんが、この文案で確定ということにさせていただきます。よろしいでしょうか。
○長谷川委員 事務局への要望なのですが、聞こえますか。

少しゆっくりしゃべりますが、この「報告にあたって」の活字の大きさが、ほかのページの活字の大きさに比べて少し小さい感じがしましたので、報告の初めのところが石阪先生の「報告にあたって」ですので、少し字の大きさを考えていただいたらいかがかと思いました。

以上です。

○石坂会長 字の大きさということですが、再度検討させていただいて、恐らく余白を変えるとか、図を縮小するかして対応できると思いますので、また事務局と相談して、字は同じような形にさせていただきます

いと思います。

ほかはいかがでしょうか。

よろしいようでしたら、この文案でおよそ進めさせていただくということにさせていただきます。

それでは、一応これで最終報告書ということでまとめさせていただきます。

もし何か今後修正が発生した場合は、恐らく皆様にお諮りする時間的余裕がありませんので、事務局と私のほうに一任いただき、それらを報告書に反映させていただいた上で、2月9日に区長のほうに答申という流れになって進んでいきますので、よろしく願います。

一旦ここで区民評価委員会の全体会の議事としては終了なのですけれども、今年度はこういったイレギュラーな中で、皆様には評価作業に尽力いただきました。さらに事務局の皆さんも、このオンラインシステムもそうですけれども、いろいろと大変な思いをされたと思います。最後に、ご感想、ご意見を頂ければと思います。お一人2分くらいでお願いできればと思います。順序としては、公募委員の皆様、分科会会長の先生方の順番でいきたいと思います。

当初配られた名簿順、あいうえお順でいきたいと思います。明尾さんから感想をお願いできればと思います。

○明尾委員 おはようございます。くらしと行財政分科会の明尾陽子です。

今年は2年目となりまして、評価活動をさせていただいたのですが、今年は昨年と違って、当たり前のことが当たり前にできなくなってしまったというような1年だったので、そんな状況の中でも、真剣に区民の暮らしのことを考えて行動して下さっている各事業の方々に感動しながらも評価をさせていただきました。区の職員方々がデジタ

ル機器をすごく上手に、昨日も遅くまで調整して下さったりとか、やって下さったことに本当に感謝しつつ、多分オンラインで参加されている皆様も、ご苦勞がたくさんあったんじゃないかなと思っています。

評価活動に関わることによって、たくさんの方に気づいたのですけれども、普通に暮らしていてもなかなか気づかないこと、暮らしが守られているということや、足立区の皆様がこんなに考えて下さっているということが、本当に2年間通して学ぶことができたので、これからは私の周りにも、もっともっと広げていきたいなと考えています。

昨年から引き続きお世話になりました。ありがとうございました。

○石阪会長 明尾さん、どうもありがとうございました。

私も昨年、明尾さんと一緒に評価をやらせてもらいましたけれども、今年は昨年と比べると全然違った環境の中でのことでしたので大変だったと思います。どうもありがとうございます。

続きまして、伊藤さん、願います。

○伊藤委員 ひと分科会の伊藤です。

今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今回の機会を通して、いろいろなことを学べたのですけれども、それ以上に、いろいろな人と接して、いろいろなことを学べたので、すごくいい機会になりました。自分の力不足も感じたので、来年はもっと頑張りたいと思います。ありがとうございました。

○石阪会長 ありがとうございます。

これまで若い方が少なかった時期もあったのですが、今回、参加いただきありがとうございます。恐らくいろいろ刺激もあったと思いますし、来年もあるということですから、こういう中での評価でしたけれども、また来

年もよろしく申し上げます。ありがとうございました。

続きまして、井上さん、お願いします。

○井上委員 一般事務事業を担当しております井上と申します。

今年度は初めての参加となりました。オンラインでも私自身はできたのですが、今回は区の職員の方の仕事ぶりというのですか、そういうのを見たくて、区にわざわざ出向いて参加させていただきました。

いろいろ思うことはあります。一般事務事業の施策の評価の難しさ、本当にこれは難しいなと思いました。今年度は本当に短期間のうちにデータを読み込んで、本来ならば5年分のデータを読み込んでやるのが評価の一般的な流れとなるのですが、本当に評価の難しさというのが、自分自身も仕事をしながら参加をしていましたので、データをそんなに読み込んでいなくて参加してしまったために、ちゃんとした評価ができたのかなと思います。

この区民評価の目的、区民というのは、やはり区の職員の方の意識改革、あとは気づきをもたらせること気ができたかどうかというところが、私自身、本当に今年度できたのかなと思っています。

一般事務事業でやってみて思ったのが、今回の一般事務事業、これは16年目になりますけれども、活動指標というのが本当に成果に結びついて、ちゃんと行政サービスが向上しているのかどうかという点が、ふっと見えなかったかなと思います。これは一般事務事業の活動指標ということなので、ただ単に活動して点数がついていますという評価をするというのが、私自身ちょっとどうなのかなと思ったところです。それが重点プロの場合は、成果の指標ということで、ちゃんと目に見える形で、その成果がこうなっていますと

か、区民の人たちの行政サービスが向上していますという、そういった意味では重点プロと一般事務事業の評価の難しさというところがすごく今回はあったのかなと思います。

来年度は、このオンラインの会議システムというのは継続されるだろうと思いますけれども、この会議に限ったことではなくて、やはりフェイス・ツー・フェイスの会議も大事かなと思っています。すみません、ちょっと長くなって。これを感じたのは、休憩時間に区の職員の方と会話をする。ほかの委員の方も参加されていたので、会話をする。その中で、区のこういったところが問題だよねとアイデアを出しやすかったりするのですね。そういった意味でも、オンライン会議を取り入れつつもフェイス・ツー・フェイスの会議、それこそフィールドワークとかという話も出ましたけれども、そういったところも次年度の課題ではあるのですが、どうやって区民のサービスの向上につなげるかといったところが、私自身の課題として、あとは区の職員と協力しながら進めていければかなと思っています。

すみません。長くなりましたけれども、今年度はありがとうございました。

以上になります。

○石阪会長 今年度はオンラインを導入しましたけれども、次年度は、例えば今年度できなかったフィールドワークとか、あるいはヒアリングなども本当はできればいいと思いますので、できればハイブリッド型で進んでいくような、併用するような形でいければなどは思います。また次年度検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、大竹さん、よろしく申し上げます。

○大竹委員 おはようございます。

私も委員活動が2年目になります。本年度ようやく評価委員会というものが、昨年1年度目のときにいまいち全体像が見えなくて、こういうものだというのが分かっての今回2年目で、こういったコロナ禍でのオンラインでの委員会というので、本当に区の職員さんたちに、委員の皆さんたちもいろいろなご苦労というか、先ほども音声聞き取りにくかったり、割れてしまったりとかいうので、そうやって私の声が聞こえるかどうか不安なのですが、本来集中しなくてはいけない事業の資料の内容というよりは、そちらの音声の部分に気持ちが偏ってしまっているという残念なところはありましたが、ただ、こういった技術的な部分というのは、さらにすぐ向上・改善ができるのではないかなということ、石阪先生がおっしゃるとおり、ハイブリッド配信というのですかね、これをうまくやると、とてもすばらしい仕組みだと思っているので、今後そういったものがもっと進んでいけるといいかなと。いろいろな民間の画期的な考え方とか技術を取り入れたらいいかなというふうに思います。

偉そうに言っている私自身が、提出期限に遅れてしまったり、参加時間に遅れてしまったり、そんなこともあったりしてとても反省していますけれども、評価委員会での検討ということも大切だと思いましたが、足立区は評価委員会などを通じてなのだと思いますが、年々対話型という考え方の取組に対して、とても開かれた事業を進めているなどというのもすごく感じるが多くなりましたので、今年、私は任期が終わりになりますけれども、来年以降は評価委員というところを外れて一般の区民の立場で、パブコメだったり区民の声だったり、直接所管の方とお話させていただくとか、質問させていただくとか、そういう形で足立区の事業に関心を持っ

て参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上です。

○石阪会長 ありがとうございます。

恐らく他の自治体では、このコロナ禍で、ここまでの評価をやっているところはないと思います。中止や、簡素化というのが多い中で、ほぼフル規格でやったという足立区はすごいなと思います。それからもう一つは、大学もそうなのですが、先生方も皆恐らく、この1年間でかなりオンラインの技術、使い方は進歩しました。最初は皆、戸惑って、どうしようかという中でやってきたので。次年度こういう形で続けていくと、区のほうも、我々のほうも、だんだん慣れてくるのではないかと思います。いろいろな機械や設備についても充実してくると思いますので、次年度以降また課題点を含めて検討していきたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、亀田さん、よろしく願います。

○亀田委員 おはようございます。亀田です。

私は、まちと行財政分科会のほうで、遠藤先生に教えていただきながら、長谷川さん、中川さんと一緒にまとめをさせていただいたのですが、足立区の男女参画委員をやらせていただいていたのが、一部分でしか分からなかったことを、やはり全体も勉強してみたいなと思って応募させていただいたのですが、あまりにも範囲が広過ぎて、自分ももっともっと勉強しないといろいろなことが分からないのだなというのが改めて勉強になりまして、評価とかする立場では全くないなと気づかされ、もっと勉強して、来年もしやらせてもらえるのだったら、もっと力が入られるようにやりたいと思います。今後ともよろしく願います。

○石阪会長 ありがとうございます。

亀田さんは男女共同参画でもご一緒させてもらったのですが、ほかの分野も今回いろいろ取り組んでいただきましたので、また次年度もよろしくお願いします。

続きまして、庄子さん、お願いします。

○庄子委員 くらしと行財政の庄子と申します。

まず初めに、職員の方にお礼を言いたいなと思ひまして、このコロナで本当に大変な時期に、評価作業をするに当たって、あまり負担を感じることもなく円滑に評価作業が終えられまして、私自身とても達成感を感じています。ありがとうございました。

私は2年目なのですけれども、この2年間で振り返ると、本当に貴重な体験をさせてもらって、私自身のいろいろな行財政ですとか事業に対する知識が広がったので、個人的な話になりますが、目標ができて、4月から大学に行くことにしました。振り返ると、ふだん生活してきて触れない分野とか、知らなかったこととか、足立区についてとか、とても興味深いことばかりで楽しかった2年間でした。

1点、これがあつたらよかつたなと思つたのは、ちょっとした雑談という場がやはり難かつたので、そういう場でいろいろなコミュニケーションとか、知ることとか、聞きたいこととか、そういう時間があつたらもつといいのかなと思つたので、来年その点も考えていただけるといいかなとは思ひました。

最後になりますが、評価作業では直接やりとりはなかつたのですけれども、昨年ですか、藤後先生の国連の子どもの権利委員会のお話をきっかけに、子どもに対する人権ですとか権利ですとか、そういうのに興味を持ちまして、自分の仕事にしたいなと思つて今回大学進学を決めさせていただいたのですけれ

ども、個人的なお話になりましたが、ありがとうございました。とても刺激を受けたお話で、様々な大学の教授の方々のお話も楽しくて、大学にとつても期待が持てています。

ちょっとまとまりのない話になってしまひましたが、以上です。ありがとうございました。

○石阪会長 庄子さん、ありがとうございます。

藤後先生、いかがですか。どうでしょう。こういうきっかけで大学にという話でしたけれども。

○藤後副会長 本当にうれしく思ひます。去年ですよ。そのとき何を話したか、ちょっと記憶が薄いのですけれども、スポーツのことであつたり、遊びも含めてですけれども、子どもの人権、権利というのは大切なのだということを確認に話しました。それに対して、これだけ影響力があつたといひますか、一人の方の人生に影響を及ぼしたことを今実感させていただいて、私自身もすごく励みになりました。ぜひこれをきっかけに自身の研究も深めていきたいと思ひます。

本当にありがとうございました。

○石阪会長 ありがとうございます。庄子さん、ありがとうございます。

それでは続きまして、田邊さん、よろしくお願いします。

○田邊委員 田邊治代と申します。

今年度1年目の、ひと分科会を担当させていただきました。このたびコロナで本当に区の皆さんに、私はいつも区役所に来て、皆さんはオンラインでお会いするのですけれども、藤後先生、中島さん、伊藤さん、1回、伊藤さんにはお会いしてはいますが、藤後先生のお話とか、中島さんの先輩の意見というのを全然聞くことができなくて、本当にまだまだ勉強不足だということを感じしまし

た。

私は、この足立区がとても好きなのです。なぜ好きかというと、こんな私でも、高齢者なのですが、一般公募で私は採用していただいて、区民の本当の意見として取り上げてくれたりすることに対して、私は皆さんの意見を聞きながら、もっともっと勉強して、区のいいところ、また区の職員の方がこんなに頑張っているというところも、私は地域のいろいろボランティア活動をさせていただいていますが、その中で皆にPRしていきたいと、いつも考えております。

さっき庄子さんが言っていたとおり、私もまだまだ勉強が足りないの、これから先、部分的に勉強していく学校に行きたいなど考えております。本当にこの機会をいただいて、私はますますもっと勉強していかなければいけないということを痛感いたしました。

本当に区の職員の方、また私のひと分科会の皆さん、また会長さん、本当にこれからもよろしくお願ひしたいと思ひます。1年間ありがとうございました。

○石阪会長 ありがとうございます。

まさに足立区愛をこういう評価の中で表現していただいたということですね。またよろしくお願ひします。ありがとうございます。

続きまして、中川さん、よろしくお願ひします。

○中川委員 改めまして、まち分科会の中川です。

改めて、今年大学生として、評価委員の一人として貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。特に私が担当させていただいたまち分科会では、遠藤先生を初め、長谷川さん、亀田さんとともに評価活動をするに当たって、事業がどのように評価されてつくられているかというのを、学生の立場で、区の事業に関わって様々なことを知

ることができて本当に勉強になりました。例えばふだん何気なく通っている道も、区がいろいろと政策を考えてくださって、改めてまちの周りの景色が変わったように感じました。事業の大変さだったり、現場の声などを聞いて、まちづくりの難しさ、大切さをいろいろと感じて、学生時代に区民評価委員という経験ができて、改めて本当によかったのだと思っています。

また、先ほど何人かの方がおっしゃっていたように、今年はコロナウイルスの影響でオンライン会議になったことで、私の大学も大体はオンライン授業をやったので、平日の評価委員の活動の会議に参加できたのですけれども、対面授業だったら、ちょっと難しかったのではないかと思います。対面授業だと、平日はどうしても学校を優先せざるを得なかったので時間が厳しかったなと思うので、来年後輩となる学生に評価委員を勧められるかは、まだ分からないです。でもそれはそれで、改めてまち分科会のほかの委員の皆さんが日程を調整してくださったり、いろいろと対応してくださったので、会議を一回も休まずに学校と評価委員を両立することができてよかったなと思っています。特に光井さんが小まめにいろいろと連絡を取ってくださって、学校の事情とかも調節してくださって、半年間評価委員を頑張ることができました。なので、本当にありがとうございます。

最後に、私は今、北千住の産婦人科のクリニックで看護助手として働いているので、特に妊婦健診だったり、がん検診に関わっています。なので、来年度は看護の分野を生かせるひと分科会に興味を持っているので、そこで活動ができたかと思っています。

長くなりましたが、ありがとうございました。

○石阪会長 ありがとうございます。

現役の大学生にとっては、このオンラインシステムは、勉強との両立という意味でも、かなり効果があったのですね。移動や、そこまで行かなきゃならないという手間が省けたというのは、かなり大きかったと思いますので、恐らくこういったシステムを導入すると、若い方であったり、仕事や学校に行きながらという方も、こういった評価に参画する機会が広がるのではないかと思います。また次年度についても、よろしく願いいたします。

それでは、中島さん、よろしく願いします。

○中島委員 ひと分科会の中島です。

こういったコロナ禍ということで、できないのではないかとこの気持ちのほうが強かったのですが、こういうオンラインシステムを使って成し遂げられたことにすごく感謝しております。区の皆さんには大変感謝しております。

私は長くこちらの評価委員会の活動を務めさせていただき、本当に学ばせていただくことばかりで、今の皆さんの感想もすごく心に響きます。政策経営課の皆様も、本当にご尽力いただきましてありがとうございました。

今までやってきた中のことを、長く足立区に住んでいて子育てが一段落して、何かできないかと思って応募した評価委員会だったので、できたことはとても少なく、皆さんの活動を聞いて刺激になりましたので、自分も何かアウトプットできるような活動をしていけたらなと思っております。本当に足立区のことをますます好きになって、これからもその気持ちを大切に、地域に密着した活動を何かできたらなと思っております。先生方にも、いろいろなお話が伺えて大

変参考になりました。ありがとうございました。

このオンラインシステムの欠点は雑談ができないことですが、雑談タイムとかをちょっとつくったりとかして、今後改善していけたら、良いと思います。オンラインシステムは、私も仕事をしているので、移動時間がない利点を実感いたしました。もちろん家事もありますし、両立するには経験してみるとすごくいい方法と思っております。

6年間長い間、本当にありがとうございました。

○石阪会長 ありがとうございます。

私も一緒に評価委員会に関わらせてもらって、中島さんとはこれまでの評価の過程の中で、雑談もしましたね。そういう意味では、先ほど言ったように、オンラインだとどうしても雑談や作業の間の話ができないというマイナスの要素もあるかもしれません。次年度、このあたりも検証させてください。本当に長い間お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは続きまして、長谷川さん、お願いします。

○長谷川委員 区切りの4年になりましたので、今回で区民評価委員会は退出をしたいと、こういうふうに思っていますが、ありがとうございました。

特に石阪先生とは、平成28年に基本構想を協創と決めるときからご一緒させていただきまして、そういう意味では雑談もたくさんさせていただきながら、また今回は、遠藤先生とまちと行財政分科会のメンバーの方々と、比較的オンラインでしたけれども、雑談もしたのではないかなと、こんな感じを受けながら、非常に楽しい評価委員会をやらせていただいたと、私自身はそんなふうに思っています。

私は、協創という言葉が特に大好きになりましたので、これは区の職員だけの問題ではなくて、今回の提言の最初にも、それから遠藤先生のまとめにも書かれていますけれども、区民に根差す、そこまで区民が意識を持ってそれに積極的に参加する。こういう時代が来ることを、今度は私も区民の立場になって一生懸命協力をしていきたい、このように思っています。

いろいろと4年間ありがとうございました。

○石阪会長 長谷川さん、ありがとうございます。

長谷川さんとは「協創」の基本構想の策定の時からご一緒させてもらいました。協創に対しては区民の方はかなり強い思いがあって、区民が単に行政と協働するだけではなくて、主体的に動いて自らの活動につなげていくような、そういう主体性が大事であること。あと、つながりということですね。協創については今回評価としてあまり高くなかったところがちょっと残念なところでもありますけれども、次年度以降またこの協創が根づくようになればと思います。委員の皆さん、またよろしく願います。長谷川さんもどうもありがとうございました。

続いて、藤澤さん、よろしく願います。

○藤澤委員 暮らし分科会の藤澤です。

3年間、くらしのほうができまして、大分継続して見ることができたのが、とてもよかったなというのはすごく感じます。

ただ今年はコロナ、私は訪問看護をやっているのですが、ちょっと具合が悪いというだけでも昼夜問わず行かなきゃいけなくて、頭の上から足の先まで防護服を着てというので、かなりピリピリと神経を張りながら仕事はしていました。どうしても行政の行う事業と現

場で緊急に必要なものの乖離というのがすごく感じまして、これはいたし方ない、今回のコロナについてもいたし方ないとは思いますが、やはりそういう最大級のことを見据えた事業というのも並行してやっていかなきゃいけないというのは痛感しましたので、また私も今後関わる中では何かお伝えできればなというふうには感じます。

庄子さんもおっしゃっていましたが、私もこの3年間、分科会長の先生方初め皆様から影響を受けて、やっと今年1年間、大学の学習が終わりかけていまして、また来年も思うのですけれども、この区民評価委員というのは、自分の学びの必要性だったりとか、学ぶ楽しさということがすごく感じられる、すごくいい委員会なのかなと思います。

来年も関わる中で、まだまだウェブ会議、対面というのは難しい状況だとは思いますが、少しでも読み込みであったりとか、雑談というところを取り入れながら、区民目線というところで、区の発展というか、今後の自分たちのためにも何かしら役に立ていければなと思いますので、また今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

○石阪会長 藤澤さん、ありがとうございます。

藤澤さんは去年、行政報告会でも発表いただきましたし、保健福祉、介護の分野でもいろいろな見識をお持ちなので、去年、一緒に分科会をやらせてもらいましたけれども、すごく勉強になりました。さらに大学のほうでも学習中ということですので、今後ご活躍を期待しています。また来年もよろしく願います。

それでは、村田さん、願います。

○村田委員 一般事務事業見直し分科会の村田です。

オンライン会議の功罪については、皆さん

お話ししているとおりだと思います。ただ、今後もオンライン会議は避けて通れないわけですから、できる工夫で、議論するとなれば対面式で、研修だとか講座とか報告だったらオンラインでもいいのかなという感じを持っております。事務局には、来庁者のために準備いただきましてありがとうございました。

以上です。

○石阪会長 ありがとうございます。

一応これで区民委員の皆さん全員にご発言いただいたと思いますが、発言されていない方はいらっしゃいませんよね。大丈夫ですね。

それでは、ここからは分科会長の先生方に、それぞれ名簿順でお願いしたいと思いますので、藤後先生からよろしくお願ひします。○藤後副会長 ひと分科会を担当しております藤後と申します。よろしくお願ひいたします。

今年はコロナの中で、まず開催して下さったということに、本当に感謝をさせていただきたいと思います。多分足立区の行政の方、夜中までとは言いませんが、夜のあのメールの多さを考えると、このメールは今、足立区役所にいらっしゃるのかしら、自宅にいらっしゃるのかしらというように、私自身ちょっと心配になるくらい、かなり過労がたまっているのではないかと感じております。それくらいご努力していただきながら区民評価を開催して下さったということに、とても感謝しております。

そのコロナの影響として、ライフサイクル自体がかなり変わってきたと思うのです。不要不急ということは、より地域の重要性、地域に支えられる、地域で生きていくということを実感した年でもあったと思います。ですからこそ、足立区でできること、それも区民

と一緒にできることを考える機会としても、この区民評価はとても大切に意味があると思っています。

今年、私自身すごく印象的だった出来事としましては、この評価の中で児童虐待の分野、養育困難改善の分野で、「いっしょに考える児童虐待」ということをやってくださったことでした。協創実現には、まずは問題共有がとても重要なのですけれども、その問題共有に向けて、区の状況を地域の皆さんと一緒に考えるということを実践して下さり、すごく感銘を受けております。ですので、このように問題を共有しながら、ぜひ今後も区と協創的な関係を作って、進んでいきたいなと思っております。

最後になりますが、田邊さん、中島さん、伊藤さん、本当にありがとうございました。いろいろ至らない点もあったと思いますが、ぜひ今後とも一緒に活動していければと思っております。

以上となります。

○石阪会長 藤後先生、ありがとうございます。

続いて、名簿順で行きますけれども、遠藤先生、よろしいでしょうか。

○遠藤委員 まち行政分科会の遠藤です。

私は7年目ということなのです。石阪先生も7年目、一緒に入ったのでしたっけ。最古参ということですね、7年は。これだけ続くとはいってなかったのですけれども、一番恐れていたのはマンネリ化というやつなのですが、それは全然心配なくて、委員さんが毎年代わられて、本当にフレッシュな感じになる。これに刺激を受けてということで、今年も襟を正してやらせていただきました。私の年からして、子どもたちは中川さんや伊藤さんよりずっと年上なのですけれども、おまえら、こういうすばらしい学生さんがいるのを

知っているかと言いたくなるような本当にしっかりした委員さんをお招きして、本当に助かりました。ありがとうございました。

オンラインということですが、最初のご挨拶のときに申しましたが、私はちょっとけがをして入院もしてということで、実際動けないものですから、本当に助かったところじゃない、これがないと何もできなかったという状態のこの1年でした。助かりました。ですから来年度、石阪先生もおっしゃいましたけれども、ハイブリッドでどういうふうに取り入れたらいいのか、オンラインいいじゃないかという感じがしておりますので、そこはぜひ足立区の中でもお考えいただきたいなと思います。

コロナということで、評価の場では、達成度評価はつらかったですね。どうですか。どのプロジェクトも1点ぐらいつつ、げたを履かせてあげたいなという感じがするという、そういう評価になったと思います。つまり実働半年でしょう、結局は。その中でよくここまでやったなという評価なのだと思うのですね。それがちゃんと言えてなかったかなという気がしますが、よくぞ頑張ってくださいました、足立区の皆さんということです。

それから、私は足立区との関わりをご挨拶の中で言っちゃっているので、皆さんの前で2回目になったら申し訳ないのですけれども、言わせていただきます。東京未来大学って、もともと足立二中なのですよね、藤後先生。足立二中って何かというと有名な中学でして、このメンバーは覚えておられる方が少ないと思いますけれども、「3年B組金八先生」の舞台なのですよ。あそこを舞台にして、荒川土手で中学生がたむろしている姿が印象的な番組でしたけれども、あれが放映されたときに40年前、私は学生だったので、そのときに北千住に下宿していたのです

よ。学生のとときに4年間、バイトの縁があって。周りに学生なんか1人もいなかったですね、このまちは。中学校の窓のガラスが割れていたのですね。全国的にそういう傾向だったかもしれないけれども、荒れていましたね、中学が。それで塾がはやりまして、学校で授業がまともにできないので塾頼みだと。塾の先生をやっていたのですけれども。そういうときに「3年B組金八先生」が放映されて、その時間帯は北千住のまちは本当に静かでした、夜。みんなテレビにかじりついて、そんな感じだったのです。あれは何回も何回も繰り返し放映されていますけれども、最初に放映されたのは40年前なのですね。そのときから足立区との関りと言えは関りなのですが、働き出したら、URということもあって、足立区の仕事もあり、住んだのはその4年間だけなのですから、決して足立区にとってはよそ者じゃないつもりなのですが、評価をしていて時々、やはり外からの目が必要だなと常に思っていることです。区民としての目線、それで評価、これが一番必要なところだとは思っているのですけれども、よそ者の意見も聞いたほうがいいよということが時々あって、そこはまたおもしろいところで、あえて意見を闘わせたりして、そんなこともやったりしております、その辺は非常におもしろいなと思っていて、毎年毎年だんだん楽しさになってきました。今年も非常に充実してお二人代わられて、長谷川さんがおられたので安定していたのかな、本当に助かりました。

そういうことで何とか評価もできました。ありがとうございました。

○石阪会長 遠藤先生、ありがとうございました。

北千住にいらっしゃったのですね。そういう意味では、今回の報告書もかなり北千住プ

ラス足立区への思いが入った、そんな報告書だったと思います。ありがとうございます。

それでは続きまして、大口先生、よろしくお願ひします。

○大口委員 大口です。くらしと行財政分科会の分科会長として、今回皆さんと一緒に評価に携わらせていただきました。ありがとうございました。

私は、これから先の話ですね。これからかなんと思っている部分が幾つかあります。ある意味覚悟を持ってですが、このコロナの影響が評価の中にかかなり出てくるという年、分科会の中の議論でもありましたが、次年度の評価のときに、様々な形でこのコロナのことが出てくるかなんということが、先のことを考えると見えてきたりすることがあります。

そんな中、またさらに評価自体の仕組みの中で、恐らく区の皆さんが、これからいろいろと検討されるだろう全ての事業を評価できるかどうか、今回絞って評価をしたと思いますので、残念ながら評価という形で話が聞けなかった、できなかったところの事業もあったかなんと思っています。それがまた全部できるにはどんな形があるのか、完全オンラインではなくハイブリッドなのかなど、様々なことがこれからある中で、今回初年度ということで関わらせていただいて、分科会の中で様々なご意見を皆さんと話させてもらって、今ほとんどの方々の話を聞いて、皆さんがそれぞれの思いをもってして今回の評価に関わっていらっしゃるのだなということを踏まえて、先はいろいろと困難がいっぱいありますのですけれども、今までの議論、分科会の中でも、時間がない中でも何とかいろいろと考えたこと、そういったことを生かしつつ、先のいろいろな困難に皆さんと、それから協創して、ともにつくっていくようなことができるといいなと思っています。

初年度なので、この評価委員の構成が次年度どうなるかというのが、まだイメージがつかなかったりする部分はあるのですが、お話を聞いていると、皆さん自身が足立区の中で、それぞれでいろいろな形で頑張っているというところが、すごく心強いなと思っています。そういった仲間が、この評価を通じて足立区を何年間もつくりてきているということ、そのこと自体も、ほかの区にはないすばらしいところかなんと思ったりします。

初年度ではありますが、いろいろ関わらせてもらって刺激的でした。皆さんも学びのという話もありましたが、私自身もいろいろなことを学んできた部分はあるので、これからもそれを積み重ねて頑張っていきたいと思ひますので、ぜひともよろしくお願ひいたします。

○石阪会長 先生、ありがとうございます。

それでは、最後になりましたが、寺井先生、よろしくお願ひします。

○寺井委員 1年過ぎていろいろな思いがあるので、うまく言えるか分からないのですが、まず初めに、こういうハイブリッド方式で会議を行うという初めての経験を、1年を通して無事完遂して下さった足立区の皆様のご苦勞とご熱意に、とても感謝をしています。

それから石阪先生、今回、昨年度のやり方をそのまま踏襲することができない状況の中で、広く委員の意見を聞いてくださり、足立区と調整して下さったことに深く感謝をしています。ありがとうございます。

この仕事をする私のモチベーションはたくさんあるのですけれども、最も大きいものが、分科会の委員の皆さんとコミュニケーションを取るのがシンプルに楽しい、単純に楽しいのです。井上さん、大竹さん、それか

ら村田さんには本当にお世話になりました。大竹さんと村田さんは去年から引き続きで、ちょっと甘えられる部分もあるというか、そういう部分もあって、井上さんは今年度から参加してくださって、すごく建設的な意見をいっぱいくださって、私たちの活動に1年目から貢献してくださったと思っています。

それに加えてなのですけれども、石阪先生が書かれた、先生と呼んではいけないのかもしれませんが、「報告にあたって」を私も拝読して、1ページ目の最後の段落に書かれていることが、私は非常に、ああ、なるほどと思いながら、自分も共感しながら読ませていただいて、特に共感したところを幾つか、時間を過ぎちゃいそうですが、私も述べさせていただくと、「とくに教育や人材育成の分野で、固定的な役割にとらわれない横断的な連携が必要となる」ということなのですね。今年度の分科会で、足立区の人口高齢化が進んでいて、そのことで例えば農業であったり、水害とかの予防に対して、いかに若い人を巻き込んでいくかというのが大事で、特に農業なんかは若い人の力をかりたいのに、なかなかそれが結びつかないという話が出たのですね。若い人一人一人に期待することが人口高齢化でますます高くなっているけれども、やはり皆さん、仕事があったり、学生さんだったりで忙しくて、なかなか巻き込めないというところで、けれどもそういう工夫を、これから学校教育などとも連携しながらやっていく必要があるのだろうなと思いました。

それから多様性の重要性を皆さんと仕事をご一緒して強く強く感じているところなのです。井上さんと大竹さんと村田さんと私は、年齢も同じではないし、偶然だと思うのですが、性別もバランスがとれていて、関心も様々なのですね。多様な人材が集まっているからこそ、一般事務事業という本当に

多分野にわたる事業を評価するときも、誰かがすごく得意な分野なのかもしれない、けれども様々な関心だったり、経験ある人が集まるからこそ、ああ、なるほど、そういう意見があるのだなとか、そういうコメントがあるのだなと、すごく私は強く感動したのですね。しかも私は区民じゃないのだけれども、やはり区民の方々の当事者意識、本当に区をよくしたい、自分が住んでいる区がよくなってほしいという強い気持ちがあるからこそ、具体的な案が出てくるのだなというのを本当に強く感じました。

最後にオンラインのことを書いてくださっているのですが、正直申し上げて、自分の仕事、それから研究、例えば外部の仕事なんかと両立する上で、ハイブリッド方式を取り入れてくださったことは非常に助かったというのが本当に正直なところなのです。今日の午後から大学の授業があるのですが、こちらにぎりぎりまで出て、そのまま大学の授業にも出られるということがあるので、もちろんフェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションにかなうものはないというのは、それは私もよく分かっているのですが、こころはうまくバランスをとっていただけたらなと思います。

今年は大変な年ではありましたが、でもこの区民評価で皆様とコミュニケーションを取ったということは、大変な年の中でも、私にとっては、またいい経験というふうに思っています。どうもありがとうございます。

○石阪会長 ありがとうございます。

ちなみにちょっと補足をすると、今の部分は寺井先生のコメントと藤後先生のコメントをうまくつなげて私のほうでまとめたところです。特に連携のところですね。藤後先生も、子どもの分野でしたけれども、当事者

意識の視点が大事だということをおっしゃってましたから。まさに区民評価というのは、この2つ、連携という視点、それから当事者の視点。こういったものは非常に大事だと思います。今後も評価の中で、この部分は忘れてはいけないなという気がしました。

最後に私のほうから一言。「報告にあたって」のところで大方述べさせていただいたのですけれども、1点加えさせていただきます。私は、他の自治体でも、外部評価に関わる機会があるのですが、正直言って結構冷たいのです、表現が。その自治体の事業を、客観的に見るというのが我々の視点なので、外部評価というのは、どうしても冷たくなってしまふのです。けれども、区民評価のいいところは、皆さんがおっしゃっていたように、足立区が好きだとか、足立区を何とかよくしたいという強い思いを持った方が、応募されてきて区民委員になっていますので、評価のコメントが温かいんです。足立区をクールに評価、格付をするのではなくて、何とか足立区をよくしたいという思いが伝わってくる、そういう評価なんですよ。だからこそこの区民評価というのは、ほかの専門家による評価よりも意味があると思っています。足立区のことを本当に考えている、本当によくしたいと思っている人たちが評価の主体になるというところが、その他の外部評価との違いなのかなとも思っています。

そういう意味では、今年はコロナがあつて、やり方をめぐって、いろいろ皆さんからも課題を頂きましたので、もし次年度こういう形でまた評価をするという機会があれば、どうすれば皆さんのご意見、あるいは考えを施策や事業に反映できるのか。今日、作業の合間の雑談が大事だという意見が複数出ていましたので、オンライン雑談みたいなものがあったらいいのかなとか。オンラインの

中でも雑談できるみたいな話もコメントであつたので、いろいろな雑談のやり方も含めて、オンライン評価をどうやって進化させるか考えていきたいと思います。遠藤先生、そうですね。

○遠藤委員 そんな雰囲気はありましたね。十分これでいけるなという、雑談と言っているのかどうか。そんな感じでしたよ。

○石阪会長 雑談というとちょっと問題があるのかもしれませんが、広く委員間のコミュニケーションの取り方も含めて、また検討させていただきたいです。そして、何よりも今回の評価作業に関しては事務局のサポートですよ。正直私は、前半での開催が駄目だった時点で今年はないと思っていましたし、するにしても、かなり厳しいんじゃないかと思っていたんですね。恐らくこれは区長の判断もあつたと思うのですけれども、やってほしいという思いに、事務局が応えたという形です。評価対象事業を減らしてはしましたけれども、何とかフル規格で最後まで行ったというのは、大変なことだと思います。夜中にメールがあるという話もありましたけれども、実は、私も結構夜中に返していたりもしていたのですが、今回の作業はイレギュラーでしたし、大変だったと思うのです。

あらためて事務局に感謝申し上げたいのと、それから、ヒアリング等々でお越しいただいた職員の方。こちらは大変だったと思うのです。今までのような形ではいけませんし、どうやって自分たちの事業をアピールするかということも工夫が求められたと思います。去年までだと看板やボードを持ってくるとか、いろいろなことができたのですけれども、今年はオンラインの中でしたからそうしたこともできなかったと思うので、やり方も含めていろいろ格闘いただいたということがあつたのではないのでしょうか。次年度

は、いろいろなことができるような、そういうような評価委員会にできればと思っています。

それでは、今年度ですけれども、一応全体でこういう形で顔を合わせる機会というのは、これが最後になります。皆さんからもいろいろな貴重なコメントを頂きましたので、次年度また事務局と調整しながら生かしていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返しをします。よろしくをお願いします。

○事務局（政策経営課長） 事務局の伊東でございます。皆さん、本当にありがとうございました。

本年度は、皆様のお話にもありましたけれども、コロナということで、例年とは全く違うやり方で今回やらせていただきました。私たちにとっても、このオンラインのやり方というのは、一つのチャレンジでございました。

区民評価委員会も進化をしていくことが必要だということもありましたので、今回このオンラインを取り入れてやってみようということでやらせていただきました。

この区民評価委員会自体も、石阪会長のお話にもありましたけれども、年度当初どうしようかというところから実はスタートをしました。4月当初の頃は、コロナの状況がどうなるかが分からないということもございましたので、本年度は難しい、できないという選択肢も私たちの中には正直言ってありました。区長にも相談した上で、本年度どうしようかというところでは、ここまで続けてきたという経緯もあるし、区民の方々の意見を取り入れていくことも必要だから、何とかしてやれる方向で考えていこうということで、区長の判断もございまして、今年、開催ということにさせていただきました。

ただ、時期も変わりましたので、皆様方には本当にご負担をおかけしながら開催ということになりました。ここまで報告書を取りまとめていただいて、私たちに貴重なご意見を頂いたということ、この場をかりて改めて御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今回提言を受けたことを来年度以降の評価にも生かしていきたいと思ひますし、16年、ここまで皆様方のご協力をいただいて、この評価委員会をやってきた、まさに継続は力なりということなのだと思ひます。この評価委員会は、恐らくやめるということはなく、何十年も続いていくという形になると思ひますので、1年ごとにブラッシュアップをさらにしていければと事務局側も考えておりますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

本年度1年間どうもありがとうございました。

○事務局（政策経営担当係長） 委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

私のほうから、3点ほど事務連絡がござひます。パワーポイントでつくっておりますので表示させていただきます。

事務連絡が3点ござひます。1点目が、アンケート調査へのご協力ということでお願ひしたいと思っています。まさに委員の皆様からもご意見があつたとおり、今年度はチャレンジでオンライン会議システムを導入した形で区民評価委員会の評価活動を進めさせていただきましたが、一定の収穫があつたと私としては思っております。

ただ、運営手法の中でも、よかつた点と、逆に私が聞かないといけないのが改善すべき点、所管のほうにPDCAサイクルを回していけないと私たちが言わないといけない立場であるがゆえに、私たちも区民評価委員

会の評価活動をP D C Aサイクルの中で改善していきたいと思っています。その中で、今年も感じたこと、些細なことでも構わないと思っています。委員の皆様の見解を取り入れて、来年度の運営方針に反映させていきたいと思っています。私のほうで、なるべく迷わずにお答えできるような形でフォーマットを作らせていただきますので、後日依頼させていただきます。忌憚のないご意見をいただければと思っていますので、よろしくお願ひします。

2点目でございます。ぎりぎりまで日程調整を迷って、この時期に皆様にご提示になることは大変申し訳なく思っています。区長のスケジュールを取ることができまして、年明けになって、また年度末のお忙しい時期になってしまうのですが、令和3年3月30日（火曜日）の10時から1時間ほど、区長を交えながら、今年の評価活動を振り返りながら意見交換をさせていただきたいと思っています。場所が、ご来庁頂いている委員の皆様は、このフロアの向こう側になるのですが、場合によっては、オンラインで参加されるという委員さんもいらっしゃるのです、この会場で開催できればと思っています。場所については追ってご連絡させていただきますが、日時につきましては3月30日ということで開催させていただきますので、よろしくお願ひします。

3点目です。委員の皆様の公募です。ご退任される委員さんもいらっしゃるのですが、来年度に向けて新たに6名の委員さんの公募をしております。今年退任される委員さんも、もちろん再度お申込みいただきたいなと思っていますところと、ご知人の方で区政に関わることを特に気にされている方がいらっしゃればお声がけいただけると幸い

です。私たちが様々な視点を取り入れながら事業の改善に努めないといけないと思っていますので、知人の方にお声がけにご協力いただけると幸いです。

事務連絡はこの3点となります。

最後に、本来であれば、皆さん集まって全員で記念写真を撮っているのですが、今年オンライン会議も併用しておりますので、特にオンラインで参加されている委員の皆様は画面越しという形になるのですが、私どもも活動の締めとして記念撮影をさせていただきたいと思っています。今会場にいらっしゃる委員さんに画面の前に移動していただいて、画面で参加される委員さんと、会場で参加されている委員さんの全員が写るような形で記念撮影をさせていただきたいと思っています。事務局で誘導等の準備を行いますので、少しお待ちください。5分ほどで終了できるように手配いたしますので、ご協力をよろしくお願ひします。

（集合写真撮影）

○事務局（政策経営担当係長） 今撮りました記念写真は、区民評価委員会の評価活動の情報発信に活用したいと思っています。ホームページや、場合によってはSNSにも、こういう評価活動が終了しましたという形で上げたいと思っているのですが、写真を掲載するのに抵抗がある方がいらっしゃれば、後ほど私のほうにメールを頂ければと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、区民評価委員会の全体会は以上となります。ありがとうございました。